

当院から地域へ 地域から当院へ

看護科学研究学会(略称:看科研)は、日々の実践の理論的基盤にナイチンゲール看護論を捉えて、より良い看護の浸透を目指す研修会として1981年5月に発足しました。研修内容としては4コース用意されており、その中のAコース『事例検討を中心にナイチンゲール看護論の科学的実践力向上を目指す』は、2012年4月より当院を会場に開催されています。近隣の看護職の方々も一緒に、より良い看護を提供するための話し合いに参加しませんか？

研修は年に4回行われ、当院の看護師に留まらず県外からも参加者があり、仲間作りの場としての役割も大きいです。研修ではグループワークで事例検討を行います。必要な看護を導き出すために、疾患だけに注目するのではなく、生育歴や発達段階等も含めた生活者としての対象を捉えなおす作業を繰り返し行ないます。日々の業務の中では、じっくりと対象を捉えると言う作業はなかなか経験することがないので、慣れない作業に参加者は毎回頭をフル回転しています。

講師の先生方の分り易く丁寧な指導や時には楽しい雑談も加わり、毎回充実した学びの時間を共有できています。興味のある方は、ぜひとも千葉病院看護部長までご連絡ください。



写真: 当院看護スタッフも積極的に参加し、学習や意見交換を活発に行っています。

ういんぐ = WING =

千葉病院広報紙 2015. 盛夏号 (第50号) 発行者 医療法人同和会 千葉病院



今年もやります!

盆踊り



千葉病院では毎年、8月の第1水曜日に盆おどりをを行っています。入院されている患者さんに楽しんでいただくのはもちろんですが、地域の方々にも参加して喜んでいただけるようにかき氷や焼きそばなどの模擬店や太鼓の演奏、南中ソーラン節の演舞などの各種イベントも予定しております。是非、ご家族やお知り合いをお誘い合わせのうえお越し下さい。スタッフ一同心よりお待ちしております。

日時：8月5日(水) 18:00~
会場：同和会千葉病院 お祭り広場

※雨天の場合は、会場が変更になります

近隣の皆様には、音楽などでご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承ください



～ 最善の行動と信頼 ～

医療法人 同和会 千葉病院

【病院概要】

- 診療科
精神科・神経科・歯科(要予約)
- 院長
小松 尚也
- 外来診療時間
平日9:00~12:30(月曜日のみ9:30~12:30)
土曜日9:00~12:30(午後は予約制)
- 休日
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日(創立記念日)
- 所在地
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508
TEL: 047-466-2176 FAX: 047-466-7503
ホームページ: //www.chiba-hp.on.arena.ne.jp
- 千葉県認知症疾患医療センター
TEL: 047-496-2255 FAX: 047-496-2256



千葉病院 患者様の権利

- ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
- ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
- ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
- ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
- ⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
- ⑥個人情報保護されます。

発行: 医療法人同和会 千葉病院
発行日: 平成27年7月31日
住所: 千葉県船橋市飯山満町2-508
TEL 047-466-2176 Fax 047-466-7503
URL: //www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/

編集後記

千葉病院外報「ういんぐ」も、今号で50号になります。2003年に仙波恒雄院長(当時)の提案より開始して以来、患者さま、ご家族、地域の皆様千葉病院のことを知っていただこうと思って発行して参りました。今後もさらに、紙面を充実させていきたいと存じます。

精神科リハビリテーションについて その3

千葉病院医師 湯浅稚子

今回は、地域社会における精神科リハビリテーションについてお話をさせていただきます。

薬物療法の進歩や急性期リハビリテーションの発展などにより、精神科病院における平均入院日数は年々減少してきており、それに伴い地域社会で生活しながら治療を続けている方々が増えています。

しかし、精神疾患の特性上、閉じこもりがちで生活環境が乱れやすかったり、時には社会的立場を失ったりと、様々な社会的不利益が生じてきます。そういった状況では、治療環境も整いづらく、病状も不安定となりやすい傾向にあります。

ですから、地域社会におけるリハビリテーションでは、“生活の場”、“活動の場”、“働く場”、など地域社会における社会的役割を可能な限り保証し、地域社会とのつながりを維持・回復することが大きな目標となります。

家事や買い物などの日常生活支援のためのホームヘルプサービスや、服薬管理や病状管理のための訪問看護などは、自宅での療養環境を整えるのにも有効です。「生活の場」として少人数で共同生活を送るグループホームやケアホームなどがあります。「働く場」としては、作業所や、就労に向けた訓練施設としての就労移行支援事業所などもあります。

また近年では、重い精神障害を抱えた人も施設ではなく自宅で安心して暮らしていけるように、様々な職種の専門家から構成されるチームが支援を提供するプログラム(包括型地域生活支援プログラム:ACT)が導入されてきています。

今後、地域社会におけるノーマライゼーションが進み、地域社会に根付いたリハビリテーションがより充実し、精神障害を抱えながらも希望や自尊心を持ち、可能な限り自立した生活を地域社会で送ることができる方々が一層増えることが望まれます。

ここは、千葉病院の活動を紹介するコーナーです。

退院支援への取り組み

作業療法科 石井佐代子

昨年4月に、精神保健福祉法が改正され、退院支援について新たな制度なども設けられました。その制度改正も踏まえ、当院での「退院支援」への取り組みについて、連載しております。第5回目となる今回は、リハビリテーションを担当する作業療法科より、その取り組みを紹介いたします。

ステップアップ(退院準備プログラム)

療養病棟で長期に入院をされている患者様を対象に、退院準備のプログラムを実施しています。

入院生活に慣れると、地域で生活をする感覚が薄れてきてしまいます。そこで、様々な活動を取り入れながら、少しでも地域に興味を持ち、退院に希望が持てるよう取り組みを行っています。

- ☆実施日:毎週水曜日
- ☆参加対象:退院を目指す患者様。退院先は問いません。
(退院先は自宅、グループホーム、単身アパート、生活訓練施設など、いろいろあります。)
- ☆参加期間:期限は特にありません。退院すると終了になります。
- ☆運営スタッフ:作業療法士・病棟看護師



- ☆目的
 - ・退院に意識を向ける
 - ・地域に興味関心を持つ
 - ・社会生活の知識、技術を身に付ける
 - ・退院に向けた不安、悩みの共有や解消
 - ・病気や生活の困ったときの対処法を見付ける
 - ・仲間作り

- ☆これまでの活動内容
 - ・社会見学
 - リサイクルショップ、不動産屋、地域生活支援センターなどへ外出
 - ・説明会
 - 社会資源、訪問看護、服薬指導
 - ・シミュレーション
 - 食生活(献立決め、買い物、調理実習)
 - 金銭管理(退院や生活に必要なお金)
 - 一日の過ごし方
 - ・外来患者様との交流会
 - 外来患者様との茶話会、実生活を聞く
 - ・病院のデイケア体験
 - ・相談、情報交換
 - 悩み、不安、困ったことなどを、スタッフや参加者に相談する
 - 退院準備の進捗状況の報告

自炊の練習！簡単でとっても美味しい！！
スパゲティナポリタンを作りました。

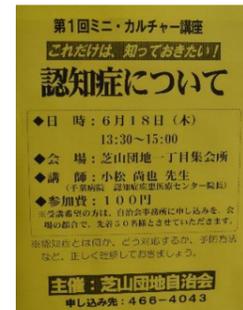


現在は6名の入院患者様と一緒に活動を行っています。退院することだけでなく、退院後どのような生活をするかイメージすることも大切にしています。入院中から困った時の対処法を考え、参加者同士で病気の苦勞を共有し、励まし合いながら、一歩ずつゆっくりと前進しています。退院という同じ目標に向かって、仲間同士の支え合いが退院を実現する大きな力になっています。

ステップアップ参加されている方から「こんな活動があったんですね！」とコメントをいただきました。入院中から新鮮な体験が出来ることに驚きを感じて下さったようです。

認知症講演会を行いました

平成27年6月18日、「第1回 ミニ・カルチャー講座 これだけは知っておきたい！ 認知症について」と題された講演会に、小松尚也センター長が講師として参加しました。



これは、船橋市芝山団地の自治会が企画・主催したもので、会場となった芝山団地一丁目集会所には、生憎の雨天にもかかわらず、30人近い参加者が集まり、小松センター長の話に熱心に耳を傾けました。講演の内容は、「認知症」と「軽度認知障害」の違い、認知症は「物忘れ」だけを指すのではないことなど、参加者のニーズに合った基本的な内容が中心でしたが、質疑応答では参加者が具体的に困っていることを小松センター長に質問し、それに回答するなど、熱い意見の交換が行われました。